

保険適用の対象が拡大！「ヘリコバクター・ピロリ感染胃炎」

ピロリ菌感染の検査の結果、感染が確認された場合は除菌治療を行うことが、胃がん予防の基本となります。従来は、ピロリ菌の除菌治療は、内視鏡検査または造影検査において胃潰瘍や十二指腸潰瘍と診断された患者さん以外は自費による診療でしたが、最近、厚生労働省よ

り保険適用の対象拡大が承認され、内視鏡検査で「胃炎」と診断され、ピロリ菌感染が確認された場合も除菌治療が保険適用になりました。



ピロリ菌検査と除菌治療

ピロリ菌の感染を調べる検査には、袋の中に息を吹き入れる「尿素呼吸試験」、血液または尿を検査する「抗体法」、便を検査する「便中ピロリ菌抗原測定法」さらに内視鏡で胃の組織を採取する方法などがあります。感染が確認された場合は、胃酸を抑制する薬と抗生剤(2種類)

を7日間服用して除菌します。薬剤の服用により、除菌できたか否かの判定は「尿素呼吸試験」等がすすめられます。



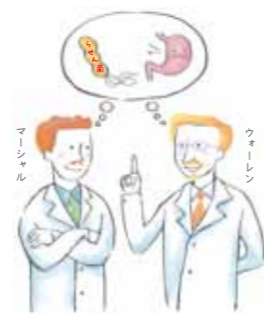
基本は、「早期発見・早期治療」

ピロリ菌が除菌できたとしても、胃がんを発症する可能性がゼロになるわけではなく、低くなるということです。また、慢性胃炎の重症化により、ピロリ菌が「胃から消える」ケースがありますが、これは最も胃がんを発症しやすい状態です。つまり、胃炎と診断された方の中でピロリ菌検査陰性の方も、除菌が成功した方も、念のために内視鏡検査を定期的に受ける必要があります。なお、ピロリ菌感染の検査・除菌治療は、お近くの内科・消化器内科をご受診ください。



ピロリ菌の発見!!!

ピロリ菌はオーストラリアのロイヤル・パース病院のウォーレン医師とマーシャル医師によって発見されました。医学界では1世紀ほど前から、胃の中に螺旋形の細菌が棲みついているという説がありましたが、強い酸性である胃の中には細菌は棲みつくとはいえないという説が有力でした。しかし、1979年にウォーレン医師は、胃炎の人の胃の粘膜に螺旋形の細菌がいることを発見しました。同じ病院に研修のためにやってきたマーシャル医師とともに、この細菌が胃の中で生息していることを証明しようと研究を行い、試行錯誤の末、1982年にピロリ菌を発見しました。

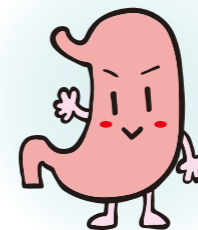


2005年にノーベル医学・生理学賞を受賞したウォーレンとマーシャル

# ピロリ菌の除菌治療

～胃がんを予防するために～

「ヘリコバクター・ピロリ(ピロリ菌)」を早い段階で除菌治療すれば、ほとんどの胃がんは予防できる可能性があります。最近、保険適用拡大となりましたピロリ菌の除菌治療について、ご紹介いたします。



ふくおか胃腸クリニック  
院長 竹原 佳彦 先生

- ・医学博士
- ・日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
- ・日本消化器内視鏡学会九州支部評議員
- ・日本消化器病学会専門医
- ・日本消化管学会胃腸科認定医
- ・日本内科学会認定内科医

福岡市博多区上呉服町10-10  
呉服町ビジネスセンター2F  
☎ 092(272) 1711

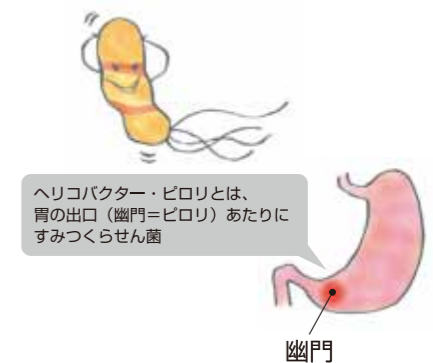
ほとんどの胃がん「ピロリ菌」が関係

胃がんは死亡率では全てのがんの中で第2位ですが、罹患数では全てのがんの中で第1位となっています。その罹患数の多い胃がんの発症を防ぐためには、ピロリ菌を除菌治療することは極めて重要です。ピロリ菌の感染

により、胃の粘膜にピロリ菌が生息すると、ほとんどの場合は胃炎を発症します。治療せず、放置すると、萎縮性胃炎(慢性胃炎)に進展し、その後、一部の患者さんは胃がんの発症という経緯をたどることになります。

ピロリ菌(ヘリコバクター・ピロリ)という名前の由来は?

「ヘリコバクター」の「ヘリコ」は「螺旋(らせん)」という意味で、「ヘリコイド」からきた言葉。「バクター」は「バクテリア(細菌)」。「ピロリ」とは、胃の出口の部分「幽門」(ゆうもん)のことで、多くの場合、幽門の周辺で発見されていることに由来します。「ヘリコバクター・ピロリ」は「幽門に螺旋形の細菌」という意味になります。



ヘリコバクター・ピロリとは、胃の出口(幽門=ピロリ)あたりにすみつくらせん菌

ピロリ菌の正式名称は「ヘリコバクター・ピロリ」(Helicobacter pylori)といいます